

幼児と遊ぶ「劇あそび」 ～「表現教育の現場から」実践シナリオ～

佐藤 厚
Sato Atsushi

キーワード：劇あそび・表現者・Improvisation(即興演劇)・Spontaneity(自然発生)
Imagination(想像)・Creative(創造的)

はじめに

幼児と劇あそびを通じて創造的な遊びを展開する際、その指導者の役割は登場人物のキャラクターを演ずる「表現者」であり、またストーリーテラーとして話を進行する「リーダー」であり、さらには場面を展開していく「ガイド役」としての存在でなければならない。しかし、実際に劇あそびを進行していく際、こども達からは様々な意見やアイデア（言葉だけではなく、身体で表現してくる場合もある）が飛び出してくる。そうした時の指導者はそれらの意見をどのように受け止め、返し、また実際に応用（採用）するかが課題となる。ともすると、こども達の意見を十分取り入れたいが為にストーリーの枠から大きく脱線してしまうことや、また逆に保育時間内にも限りがある為、お話の展開をつい強引に進めてしまい、本当は取り入れたら楽しい意見も素通りしてしまうこともある。

本実践記録は、「ジャックと豆の木」の基本となるストーリーの場面設定は決めているが、できるだけこども達のアイデアを取り入れながら展開したものである。
各場面の留意点(※)はシナリオ上で網羅する。

【主活動の前に…】

今回の劇あそび「ジャックと豆の木」を活動するにあたって、導入として「距離感」を体験的に学ぶことを取り入れた。色々な役柄を楽しむために、また日常生活における友達との距離、先生との距離、そして、ストーリーに出てくる「登場人物と自分」といった内面的な距離を感覚的に把握するためである。

I. 保育室や遊戯室（ホール）全体の空間を把握するために、「友達とぶつからないように間をあけて、広がってみましょう！」などの声がけをする。実際は、「ワ～っ！」と声を上げたり好きな場所に散っていくことが多い。そういった場合は、もう一度集まり「大声を出し

て広がるって言ったかな?どんなふうに広がるんだっけ?」など、少し落ち着いたトーンで話し、次の行動を促す。ここで、「だめだめ、声出しちゃダメ、騒がない!」などの禁止用語は危険が伴うような行動でないがぎり、できるだけ使わないことが望ましい。自ら「発見する意識」を高める為にも。

II. 遊びに集中しつつ、まわりの状態を視覚的、また感覚的にとらえることができるように、今回は、「ティッシュペーパー」を使用しての活動を行った。

ティッシュペーパーは通常2枚重ねになっているものを1枚にし、2~3cm幅の短冊にする。こども達に1枚ずつ渡す。すぐに吹いて遊んだり、投げて遊びますが、一旦留意事項を伝える。

- ・ティッシュは柔らかい?硬い?吹く時、口についたらどうなるか。
- ・吹き上げたティッシュが落ちてくるときどんな様子か。
- ・吹いて遊び以外どんな遊び方があるか。
- ・ティッシュは色々な方向へ飛んでいくが、まわりの友達のこともよく見る。

【こどもの様子】

- ・何度も続けて吹き上げる。
- ・手に持って、ぐるぐる回して上に投げ上げる。
- ・ティッシュを透かして見る。(片目で見たり、両眼にあてて見る。)
- ・おなかや顔につけて、風の抵抗を利用して落ちないように走る。

【その他の遊び】

- ・色々なキャッチ…手のひら、甲、チョキ、グー、ひざ、つま先、背中、頭、顔、おなか、その場で、また床で1回転してキャッチ、など。手足を使う場合、左右変えて行う。
- ・吹き上げて落ちてくる間に何回拍手できるか。
- ・ティッシュの動きを身体表現。(楽しいリズムカルな音楽があればなお良い。)
- ・2人組で交互に吹きあう。(年長児でも難しい場合もある。)

※この遊びは、導入だけでなく2~30分は遊ぶことができるだろう。キャッチや拍手は、こんなところでキャッチできた、何回できたなどの達成感も楽しめる。大切にしたいのは、こどもが自ら発見した遊びを指導者が受け入れ、他のこども達に知らせ、遊びを共有させることである。遊びを発見したこどもは自分に自信を持ち、まわりのこども達はまた新たな遊びを創造していく。こうした前向きなこども達の姿勢を保ちながら、劇あそび活動に移行していく。

劇あそび「ジャックと豆の木」

~実践シナリオ~

○目的：フィクションの世界を十分楽しもう。

ストーリーを理解し、友達と楽しみを共有しよう。

みんなでお話を創り上げる（楽しむ）為に、お互い工夫、協力したり助け合うことを体得しよう。

○対象：5～6歳児

○場所：幼稚園、保育園のホールスペース。（内容規模によっては保育室も可）
児童館などのホール。

○用意する物：太鼓、シンバル、ウッドブロック、ティンパニーなど打楽器類があればよい。

<効果音>

各表現場面では、ピアノ曲（リズムバリエーション）の組み合わせや打楽器を用いる。。

<ストーリー>

劇あそび「ジャックと豆の木」

【展開1】

◎主な配役：子=子ども達、T=指導者・先生、

<お話>

T：これから、皆さんと「ジャックと豆の木」というお話を遊びたいと思います。このお話、知っているかな？

子：知ってるー（知らない、など）

T：そう、知っているお友達も、知らないお友達も、お話を一緒に楽しみましょう。

さて、このお話にはだれが出てくるかな？

子：ジャック、お母さん、豆、大男、牛、などなど。

T：そうだね。今日はこのお話に出てくる色々な役を、皆で一緒に楽しみたいと思います。

ジャックになったり、牛や大男になったりするよ。でも大丈夫。お話をよく聞いて先生の真似をして動いたり、声を出してみてね。では、このお話に出てくる、牛の鳴き声を皆でやってみようか。いくよ、さんはい！

子：も～う！

T：いいねえ。もっと大きな牛は？

※「もっと大きな声で」とは言わず、できるだけ Spontaneity（自然発生）的な発声を促す。

子：もおお～!!

T：すごい、大きな牛だね。OK！それではお話を始めよう！皆でこのお話の題名を言ってみましょう。さんはい！

子：ジャックと豆の木！

【展開2】

T：ジャックはお母さんと一緒に田舎の小さな家に住んでいました。元気いっぱいのジャックは、今日も森の中で楽しくスキップして遊んでいます。

※ピアノでリズムバリエーションなどを行う。

ある日お母さんはジャックを呼びました。「ジャッカー！」皆も呼んでみよう。

※はじめは、すぐに役柄の変化に慣れないことがあるので、こうした言葉がけを状況に応じて行う。

子：ジャッカー！

T：お母さんはジャックに言いました。

「ジャックこの牛はもうお乳も出ない。」みんなで言ってみよう、はい！

子：ジャックこの牛はもうお乳も出ない。

T：お前この牛を町へ行って売ってきておくれ。

子：お前この牛を町へ行って売ってきておくれ。

※こども達が言う時、指導者も一緒に言うことで多少間違っても安心感が得られるので、以下も場面に応じて同様に行う。

T：は～い。(残念そうに)

子：は～い。

T：ジャックは仕方なく牛を連れて出かけました。

※牛を引っ張る身体表現やとぼとぼ歩いて行く表現など。こども達も一緒に行う。

町へいく途中ジャックは一人のおじいさんに出会いました。くるっとまわっておじいさんに変身！（変身の効果音など）

※変身した様子を取り上げる。

おじいさんは、「坊やその牛とこの豆と、取り替えないかね？」と言いました。

子：坊やその牛とこの豆と、取り替えないかね？

T：ジャックはなんだか面白そうだったので取り替えることにしました。

いいよ！

子：いいよ！

T：ジャックは大急ぎでうちへ帰りました。

※指導者も走りだして走って帰る行動を促す。

おかあさ～ん！

子：おかあさ～ん！

T：僕が牛と取り替えてきたもの、見て！

子：僕が牛と取り替えてきたもの、見て！

T：お母さんはその豆を見て、とても怒りました。

カッカッカー！

子：カッカッカー！

T：お母さんは豆をどうしたかな？

子：捨てた！

T：そう、おかあさんは豆を窓の外に捨ててしまいました。こんな豆！ピュ～ン。

子：こんな豆！ピュ～ン。

T：ジャック、今夜はご飯抜きよ。さっさと寝なさい！

子：さっさと寝なさい！

T：は～い。(ショボン…)

子：は～い。

T：ジャックは仕方なく自分の部屋に行って寝ることにしました。

あ～あ。(眠ってしまう表現)

子：あ～あ。

T：さて、その夜のこと。捨てられた豆から、ピンと芽が出ると、伸びて伸びてぐんぐん伸びて一、(身体で伸びていく様子を表現する時間を十分とる。)

※こども達には、寝ているジャックから豆になったことを指導者の言葉と身体表現で意識させる。一人で表現する子もいれば、友達とつながり始めるこども達も出てくる。はじめは高さを意識して上に伸びる表現が多く見られるが、徐々にこども達は横にもつながり始める。想像 (Imagination) することから実際にその高さを創造 (Creative) し表現していく。平面的に長くはなっても「ぐんぐん伸びていくねえ、高いねえ。」などの言葉がけが、こども達の想像性を高くしていく。

T：あつという間に、高い高い雲の上まで伸びていきました。

次の日の朝。ジャックは目を覚ましてびっくり。(再び寝ているジャックに戻る)

あ～あ、よく寝た。

子：あ～あ、よく寝た。

T：ん？うわ～すごーい！高いなあ。

子：ん？うわ～すごーい！高いなあ。

T：さあ、ジャックはどうしたかな？

子：のぼって行った！

T：そうか、よし登って行こう。よいしょ、よいしょ… (のぼるマイム)

子：よいしょ、よいしょ…

T：やっとのことで豆の木のてっぺんにつくと、そこには大きなお城がありました。

大きなお城はどんなお城かな？

※豆の時と同様に、一人で表現する子もいれば複数で表現するこども達もいる。

こっちのお城はどんなお城かな？これは大きなお城だね。色々なお城がたくさんできたね。など、十分に表現を引き出す言葉がけをする。

子：(お城の身体表現を楽しむ。)

T：さて、ジャックはおなか、ぺこぺこだったので、お城のドアをノックして中に入れてもらおうと思いました。

ドンドンドン。

子：ドンドンドン。

T：女の子が出てきました。女の子に変身。

だあれ、何か用かい？

子：だあれ、何か用かい？

T：あの～何か食べるものを下さい。

子：あの～何か食べるものを下さい。

T：女の人は、ジャックをかわいそうに思い、パンを一切れくれました。

これをおあがり。

子：これをおあがり。

※この時点では、2つの役を行ったり来たりするが、指導者はどちらの役をしているかゆっくりはっきり表現で示し、こども達が混乱しないように心掛ける必要がある。

劇あそびを進行していく際は即興 (Improvisation) で劇的表現を展開することが多い。

指導者の表現力 (演技力) も求められるが、主体はこども達であるので常にこども達の様子を見ながら進行したい。

T：ありがとうございます。いただきま～す。ぱくぱく、もぐもぐ、うまいうまい。

子：ぱくぱく、もぐもぐ、うまいうまい。

T：あ～ごちそうさま。

子：あ～ごちそうさま。

T：ジャックがパンを食べ終えた時、遠くのほうから大きな足音が聞こえてきたよ。

どす～ん、どす～ん…さあ、大男に変身だ。どんな大男かな？

子：どす～ん、どす～ん… (それぞれの様になる大男になって楽しむ)。

T：あっ、大男が帰ってきたよ。さあ、早く隠れて。

※こども達は大男からジャックになって、隠れ場所を探したり床に伏せたりする姿が見られる。しかし、すぐにまた大男になる場面に展開する。

どす～ん、どす～ん、どっす～ん！ (床に座る) ん？ふんふん、何かにおうぞ！

子：ふんふん、何かにおうぞ！

T：ああ…きっと、今夜のご馳走のにおいだよ。

※このあたりは展開が早いので指導者が女の人になり、こども達には大男の表現を楽しませたい。

ふん、そうか。

子：ふん、そうか。

T：大男は、ご馳走を食べ始めました。

ガツガツ、モリモリ、ゴクゴク。あーはらいっぱい。(食べたり、飲んだりのマイム)

子：ガツガツ、モリモリ、ゴクゴク。あーはらいっぱい。

T：大男は言いました。おい、金の卵を生むめん鳥を持って来い！

どんな鳥かな？どんな鳴き方するかな？

子：コココ、コケーッコ！などなど。

T：大男は、めん鳥になにやら呪文を唱え始めました。

産め産めめん鳥、金の卵を～。(手をかざすなどの動き)

子：産め産めめん鳥、金の卵を～。

T：ポコッ！ふっふっふ…うまれたあ。

大男はもう一度言いました。どんな呪文かな？

子：産め産めめん鳥、金の卵を～。

※こども達がめん鳥になって、イメージで卵を産む表現もある。

T：ポコッ！

子：ポコッ！

T：わーまた産んだ、金の卵だ。

大男は今度は、金の堅琴に言いました。鳴れ鳴れ堅琴、よい音鳴らせ。

子：鳴れ鳴れ堅琴、よい音鳴らせ。

T：ボンポロリ～ン♪（聞きなれたメロディなど）

子：ボンポロリ～ン♪

T：大男は、いい気持ちで居眠りを始めました。大男の居眠りってどんなかな？

子：グワーゴー、グワーゴー。など。

T：女の人と言いました。さあ、いまのうち、早くお逃げ。

ジャックは戸棚の陰から出てきて、金の卵を産めめん鳥を抱きかかえ、堅琴に手をのばした時、突然堅琴が鳴り出しました。ボンポロリン！！

※上記「ジャックは…」から、指導者はストーリーを話しながら、こども達の動きと同時に展開していく。

ハッ！と目を覚ました大男は…何て言ったかな？

子：こらまでえ、どろぼー！つかまえてやるー。など。

T：ジャックは、大急ぎで逃げました。うわ～っ！

子：うわ～っ！

T：ま～て～っ！

子：ま～て～っ！

※ジャックになって逃げたり、大男になって追いかけてたりめまぐるしく展開されるので、追いかけてまわるだけでなく、その場でかけ足をして右を向いてジャック、左を向いたら大男（落語の要領）といった方法もある。また、指導者が複数いる場合は何人かに、ここからすべて大男役を演じてもらうこともクライマックスに向けてダイナミックなシーンとなり、こども達の表現もより楽しいものとなるであろう。

T：うわ～っ！たすけて～！

子：うわ～っ！たすけて～！

T：ジャックは、スルスルスーっと木から降りてきました。

子：スルスルスー。

T：そして、お母さんに言いました。お母さん、斧を持ってきて。早く早く！

ジャックはお母さんと一緒に木を切り始めました。

エイエイヤーッ！エイエイヤーッ！

子：エイエイヤーッ！エイエイヤーッ！

※まだまだ、早くしないと大男がやってくる。もっと力強く！などの声かけで緊迫感を助
長し何度か行う。

T：豆の木が倒れるぞー！

子：豆の木が倒れるぞー！

T：メリ、メリメリメリ～。

子：メリ、メリメリメリ～。

T：豆の木にぶら下がっていた大男は、

T&子：うわあ～っ！ひゅーっ

全員：どっし～ん！！

T：真っさかさまに落ちてしまいました。

イエーイ、やったー！

子：イエーイ、やったー！

T：ジャックは、お母さんに金の卵を産むめん鳥と、豎琴をお土産にあげました。

※無対象演技で、前にお母さんがいるようにお土産を渡す。こども達も一緒にできるよう
にゆっくりと表現する。

T：それからジャックとお母さんは、いつまでも、幸せに暮らしましたとさ。

全員：おしまい。

構成・指導：佐藤 厚

おわりに

本構成台本は、「朗読劇ハンドブック・玉川大学出版部」の朗読劇用台本「ジャックと豆の木・
原作：アイルランド民話、脚色：ウィリアム・アダムス、訳：松尾 佳代子」を劇あそび用に
構成したものである。

〈主な実践施設〉

- ・上田女子短期大学附属幼稚園
- ・学校法人清和学園 郡山敬愛幼稚園
- ・社会福祉法人智恩福祉会 こどもの園敬愛保育園・白川敬愛保育園・千里の丘けいあい保育園
- ・学校法人井上学園 飯山中央幼稚園
- ・劇団ひまわり 俳優養成所
- ・財団法人児童健全育成推進財団（児童厚生員等専門研修会）